



# 令和元年度 港区立中之町幼稚園経営計画

港区立中之町幼稚園長 大橋 美都子

## 1. はじめに

港区立中之町幼稚園は、明治23年5月に開園し、本年度129年目を迎える。地域に愛され、見守られながら歴史と伝統を育んできた。

園舎を含む周辺地区の再開発に伴い、平成26年9月に仮園舎に移転後、サポート保育の開始、園児数の増加など変化の続くここ数年を過ごしてきた。近隣のミッドタウンの広場や散策路、区立檜町公園などを利用しながら、仮園舎とはいえ幼児にとって過ごしやすい環境を工夫しながら教育活動を進めている。

3学年2学級であり、学年での交流も日常的に実施できるほか、他学年の兄弟ペアがいることで異年齢との関わりを楽しむ幼児に育っている。

昨年度から新幼稚園教育要領が全面実施となった。現在、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難な時代となっている。このような時代を生き抜き、未来を切り拓いていく幼児を育てるために、新幼稚園教育要領では幼稚園教育で育みたい資質・能力について「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」と3つの柱に明確化された。このことを踏まえ、今回の改訂の理念や内容を教員一人一人が理解し、不易である「環境を通して行う教育」を日々実践していく。また、港区教育ビジョンを具現化するため策定された「港区学校教育推進計画」に示されている目指すべき子どもの姿「夢と生きがいをもち、自ら学び、考え、行動し、未来を創造する子ども」を目指し、○「徳」「知」「体」を育む学びの推進 ○生き抜く力を育む学びの推進 ○地域社会で支えあう学びの推進 ○学びを支える教育環境の充実を基本目標にし、園経営を推進していく。

## 2. 目指す幼稚園

### 教育目標

げんきな子      かんがえる子      なかよくする子      がんばる子

### 目指す幼稚園像

#### 幼児がたくましく、のびやかに、いきいきと育つ幼稚園

- 幼児がいきいきと主体的に遊びや生活を作り上げていく幼稚園
- 異年齢・地域・アカデミー（赤坂小・赤坂中）とのかかわりを通して育ちあうことができる幼稚園
- 129年の伝統を大切にしながら、変化に対応し、より良い保育を目指す幼稚園
- 保護者と幼児教育の大切さを共有し、共に子育ての喜びを感じられる幼稚園
- 地域や園内の魅力を活かした遊びと生活を展開する幼稚園
- 共に学び高め合い、連携のとれたティーム保育を行う教師集団のいる幼稚園

## 目指す幼児像

- 3歳児…基本的な身の回りのことができる幼児・遊びを見付け繰り返し楽しむ幼児・のびのびと自分の気持ちを表せる幼児
- 4歳児…自分の思いを伝え、相手の言葉を受け止められる幼児・思いを実現するために試したり工夫したりすることを楽しめる幼児
- 5歳児…集団の一員としての自覚をもち、学級、学年や園全体の課題に主体的に取り組み、自分の力を発揮し役立つ喜びを味わい自信を持てる幼児・目的に向かって友達と認め合い協力し合いながら、困難を乗り越えやり遂げた充実感を味わえる幼児

### 3. 中期的目標（平成31年度～35年度）

#### ○育みたい資質・能力の3つの柱に沿った幼・小中一貫した教育の推進

幼児の未来を見据え、幼児期にどのような体験が必要なのか改めて考えるとともに、幼稚園で育まれた資質・能力を小学校へ引き継いでいけるよう育ちを共有できるように連携を密にする。

#### ○3年後の小中一貫教育校（幼稚園新設園舎）開校を見通した教育

地域と連携した教育内容のさらなる充実を図る。また、行事を精選し、行事の在り方、園内外の環境を見直し、中之町幼稚園の教育活動のために必要な環境を整備・充実させ、新園舎開園につなげられるようにする。また、学校運営協議会制度の円滑な運営に向けて、地域とともに協力し合う。

#### ○保護者・地域と協働し、愛され信頼される幼稚園づくり

129年の歴史の下、地域には卒園生や古くからの協力者が多数居住されている。地域の教育力を存分に生かし、仮設園舎でも豊かな体験ができるよう保護者・地域と協働体制をつくる。来年度の開園130周年に向けての構想を固めていく。

#### ○専門性の向上を目指し、教育に情熱と使命感をもった教職員集団の育成

若手教諭、子育て中の教諭等様々なライフステージに立つ教諭の組織である。一人ひとりが自らの目標を明確にもち、専門性の向上を目指して前向きに職務を遂行し、互いに資質を高め合える質の高い教職員集団を育てていく。

### 4. 今年度の取組目標と方策

#### ○思い切り遊びを楽しむ幼児の育成

日々の遊びや生活において質の高い、豊かな体験を重ねることができるようにする。幼児が遊びを楽しんでいるか、自身の保育が幼児にとって「主体的・対話的で深い学び」になっているのかを改めて見直し、指導の改善を図る。

### ○赤坂アカデミーの連携の強化

赤坂アカデミーの連携を大切にし、保護者にも連携の様子を発信し、地域で教育を受ける意義を感じ取れるようにする。また、学校教育全体を貫いて明確化された育成すべき資質・能力を理解し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を小学校教師と共有し、幼児教育と小学校教育との円滑な接続を図る。また、学校運営協議会制度の導入初年度として、円滑な運営ができるように基盤をつくる。

### ○地域の施設や教育力を生かす

伝統となっている地域の方を招いた行事を大切にしながら、運営方法については園の実態に合わせた方法に改善していく。幼児、保護者が地域の方への感謝の気持ちを持ち、地域への愛着を感じられるようにする。また、隣接する檜町公園や東京ミッドタウン内広場、赤坂小学校などを有効利用し、幼児にとって豊かな体験ができるようにする。また、赤坂中学校解体工事の開始により校庭利用ができなくなるが、様々な運動体験ができるようバランスボールや体操などの活動を増やし、運動体験を増やしていく。

### ○子育ての楽しさ、喜びを感じられる保護者へ

保育参観や保護者会、懇談会などを利用し保護者に幼稚園の教育内容を伝え、幼児の成長や、ともに支えていることを知らせるとともに、保護者が子育ての楽しさや喜びを感じられるようにしていく。園便り、学級便り、ホームページなどを活用して、家庭では見えにくい幼児の生活の様子を丁寧に伝えていくようにし、遊びの重要性や遊びから学んでいること、幼児期に必要なことなどを理解してもらえよう努める。

### ○3年間の見通しをもった指導内容の充実した幼稚園に

3年間の成長を見通し、各年齢で必要な経験内容を確立し、仮園舎における3年間の指導計画を作成する。様々な行事の在り方や実施方法の改善等、全職員によるカリキュラム・マネジメントを行い、次年度の教育課程に生かす。

### ○オリンピック・パラリンピック教育の理解推進

2020年に開催のオリンピック・パラリンピックを見通し、日本の国の伝統文化や様々な国の生活や文化があることを知る機会を設ける。また、様々な遊びや活動を通して幼児が進んで体を動かすことを楽しめる機会をつくったり、環境をつくったりする。

### ○チームとしての教職員集団づくり

教職員と日常的にコミュニケーションを十分にとり、相談や話がしやすい雰囲気をつくる。教職員それぞれのライフステージに合った働き方を確立できるようにするとともに、互いの良さを認め合い、フォローし合い協働できるチームにしていく。心身ともに健康に、明るく前向きに職務を遂行できるようにする。